

「豊洲四丁目団地における安全・安心なコミュニティ形成」プロジェクト

代表者	小菅 瑠香【教授】(建築学部 建築学科)
構成員	山本 創太【教授】(デザイン工学部 デザイン工学科) (小菅研) 笹本直也, 櫻井俊希, 西平新, 山本平八郎, 高松夕莉, 島田茉実, 關戸麻結, 馬博卿, 菊地瑛人, 中田新, 佐々木翼, 千藤颯太, 鈴木大河, 小林智乃, 村田大和, 荻谷怜香, 稲垣佑萌, 福島水袖, 佐藤惇, 戸塚耀太, 梅澤芽吹, 中田雅人, 深瀬遥加, 陳瀟智 (山本研) 茂呂由佑子, 坂井秀成, 劉同和, 叶子一, 大元昌汰, 加藤昂也, 岩堀航太, 浦田向日葵, 安西勇人, 新井里彩, 丸山千佳, 矢萩健翔

■プロジェクトの概要

少子高齢化や近所づきあいの希薄化によって、高経年団地のコミュニティの欠如は深刻な問題となっており、居住者が抱える孤立・孤独問題の解消は喫緊の課題となっている。本プロジェクトでは建築学部とデザイン工学部の学生たちが異分野合同でゼミナールを重ね、UR都市機構および豊洲四丁目団地居住者の方々のご協力を得ながら、効果的なコミュニティの形成方法を提案するものである。本プロジェクトは提案のみでなく、問題の背景を深く知り、関係する人々とよく話し合い、得られた情報から解決策を引き出し、ものづくりにつなげていくプロセス自体に焦点をあてている。

■教育改革研究活動助成(地域志向)活動の成果

【教育】

建築学部小菅瑠香研究室とデザイン工学部山本創太研究室の合同ゼミは、4月23日、5月14日、5月28日、6月11日、7月2日の5回に分けて行われた。研究室混合の複数のグループに分かれて、現地調査、昨年度までの団地アンケートの結果の学習、ブレインストーミング、UR都市機構の方々へのプレゼンテーション、制作といった作業を行い、各班の提案をまとめた。

7月27日に豊洲四丁目団地にて、これらの提案を居住者の方々に見て体験していただくイベントを開催した。12月16日には団地の生活支援アドバイザーの方に、団地内コミュニティについてのヒアリング調査を実施した。

一連の作業によって、学生は提案を行うまでのプロセスや課題を整理するスキルを身に着けた。

【研究】

UR都市機構と連携して行う団地コミュニティについての研究は、さらに一年前より開始しており、既に居住者の方々の属性別のライフスタイルなどの回答がそろっている状態であった。今回はこのデータをもとに提案を検討し、団地にて提案イベントを開催しながら、通りかかる人々のイベントへの関心の示し方もあわせて調査を行った。記録の分析により、年代や性別などの属性ごとに、イベントに対する関わり方に傾向があることが明らかになった。この成果は今後のさらなるコミュニティ形成の提案の際に、大いに役立つものと考えている。

【社会貢献】

小菅瑠香研究室・山本創太研究室では2023年度から「とよんマルシェ」などの豊洲四丁目団地開催のイベントに参加して、居住者の方々の生活の様子を学びながら研究調査を進めてきた。7月27日に豊洲四丁目団地にて開催したコミュニティ形成のための提案イベントでは、団地のピロティにそれぞれの提案ボードを掲示し、居住者の意見を聞くために、ボードにシールを貼っていただいた。またボードだけでなく、その場で各提案を簡単に体験していただけるコーナーを設定した。こどもから大人まで、楽しんでいただきながら提案に意見をいただくことが出来た。

また12月16日には団地の生活支援アドバイザーの方へのヒアリングでは、具体的にコミュニティ形成にどのような課題が発生しているのかをお聞きすることが出来た。これをもとに、学生たちは集会室の魅力的な改修提案の検討に着手している。



建築学部とデザイン工学部の合同ゼミ



団地模型を使ったアイデアの検討



コミュニティ活性化の提案イベント

主なトピックス

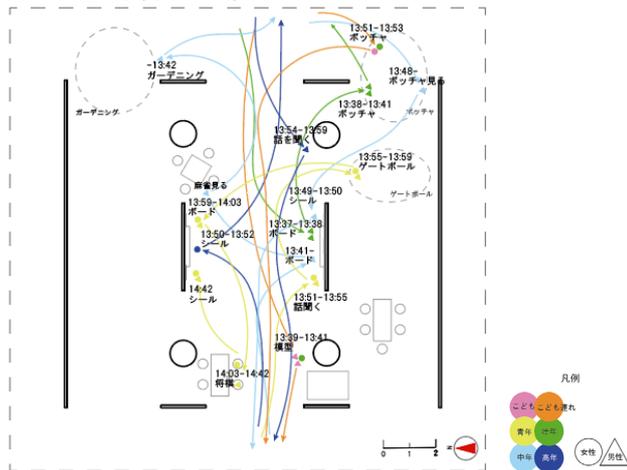
■ 団地におけるコミュニティ活性化の提案イベント

7月27日に豊洲四丁目団地にて提案したイベントは、①ボードゲーム、②集会室の改修、③散歩とスポーツ、④植物とベンチ、の4点である。これらの提案は2023年度の居住者へのライフスタイルアンケート結果および合同ゼミでのUR都市機構の方々へのプレゼンテーションでのコメントを受けてブラッシュアップされた。①は特に屋外で麻雀などのボードゲームを行い、通りかかる人が見入ってコミュニティが拡大する効果、②は安心して子どもや高齢者が屋内でくつろいで交流する環境、③は日課とレクリエーションの合体による健康増進、④は植物が一体化したベンチを設置することでの水やりと休憩の際のコミュニケーションの発生を期待するものである。実際にイベントの場においてベンチの制作を行った。

■ 属性別に見たイベントへの関わり方の特徴

上記イベント開催中に、会場となるピロティを通りかかる人々の関心の様子を図面にプロットした。子どもを連れた人がポッチャやゲートボールなどのミニスポーツイベントで足を止めて参加するケースは多く、また屋外ボードゲームでは海外からの居住者の方が参加して新たなコミュニケーションが発生した。高齢の方は団地の建築模型を見たり、麻雀で遊ぶ人々の後ろに立って意見するなど、直接活動はしないが遠巻きに参加して下さる方の姿が目立った。年齢や性別といった属性によってイベントへの関心の示し方に特徴がみられたため、今後のコミュニティ形成提案の参考とする。

7月27日(土) 13時30分～14時00分



【イベントを開催した団地のピロティ空間】
10時00分～15時00分の5時間に亘り、319組の通行があった



【提案1】 ボードゲーム



【提案2】 集会室の改修



【提案3】 散歩とスポーツ



【提案4】 植物とベンチ



■ 団地生活支援アドバイザーへのヒアリング

上記イベントでは4つの提案を行ったが、イベント後にあらためて検討を重ね、まずは集会室の改修に提案を絞ってプロジェクトをさらに進めていくこととした。

居住者の方々の生活やイベントへの参加の様子について、より理解を深めるために、12月16日に団地生活支援アドバイザーの方へヒアリングを行った。アドバイザーの方のほか、UR都市機構、芝浦工業大学で総勢18名が同席した。

ヒアリングでは高齢者や子育て世帯、海外からの居住者など様々な人の生活についてお話を聞くことができた。

学生からは集会室のより良い使われ方が新たに複数提案されており、次年度に向けて活動を続けていく予定である。